



第29号

町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【町民の声に真摯に耳を傾けたい…】

今年の一月は、正月明けは雪も少なく穏やかな日々が続きましたが、中旬から連日のように雪が降り、除雪に追われる日々が続きました。町の除雪費も降雪量と共に増えており、当初予算を使い果たしたため、補正が必要です。

しかし、北海道に住む私たちにとって、除雪は日常生活における切実な問題であり、高齢者の独り暮らしが多くなっている現状において、大切な行政サービスです。

これからも町民の皆様 の生活に支障が出ないよう努力してまいりますので、ご理解をお願いいたします。

さて、就任以来、町民の方々の声を町政に反映することを目的に、十一月から十二月にかけて各地区の町政懇談会を開催させていたいております。

今回は、例年に比べて日程が少しずれこみ、昨年の十二月十一日（月）

の松浦町内会からスタートし、一月二十九日（月）の日向町内会をもって終了いたしました。

十五会場で参加者は百三十一人となっており、町内会からの要望事項を中心に、様々なご意見をいただきました。

会場での要望・意見等に関しましては、今後の行政においてしっかりと反映させていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

また、毎年町では十二月から一月にかけて、新年度の予算編成作業を行っております。

今年の予算編成の流れは、十一月八日に財政担当から平成三十年度の予算編成方針が各課に通知され、各担当課において所管の要求額を積み上げ、十二月八日までに財政担当へ提出しております。

最初に財政担当が査定し、復活折衝を経て、その後、重要案件等や事業

などを特別職が査定し、最終決定しております。

最終的に、まとまった予算を三月議会へ提案し、承認をいただいて初めて四月一日から執行される仕組みとなっております。

今年は、収入の約半分を占める国からの地方交付税が減少し、厳しい財政環境の中で産業振興や子育て支援などに力点を置き、我慢できるものは我慢しながら、住民サービスの低下を招かないよう町長査定を行いました。

財政の基本原則に「入りを量りて、出づるを制す」とありますが、ここ数年は財政調整基金を取り崩しての厳しい予算編成となっております。

このような厳しい時代だからこそ、創意工夫が求められ、町民の皆様と知恵を出し、未来の子供たちへ財産を引き継いでいくことが、私に与えられた責務と感じております。

人の心の痛みが分かり、人の喜びを素直に喜べ、人に対して優しさや思いやりを持てる、心豊かな人をつくるため、それぞれの持ち場で全力を尽くすことが必要であり、それにより全体が豊かで明るい社会が実現するものと信じております。

人の心に光を灯すような詩を書き続けた詩人・坂村真民氏の詩の中に、「いじけるな あるがままに おのれの道を素直に 一途に 歩け」という詩があります。

人生は機の連続であると言われるとおりです。良い機もあれば、悪い機もあります。その機を如何に自分の仕事に積極的に生かしていくかが大切です。そのためには、気力が旺盛でなければならぬと思います。

この厳しく、変化の激しい時代にあって、活機応変を持って、この一年を前進してまいります。